

●今日の聖書には、洗礼者ヨハネの元に大勢の人が押し寄せ、「私たちはどうすればよいのですか？」と尋ねる姿が描かれています。この3度繰り返えされる「私たちはどうすればよいのですか？」という言葉は印象的です。先行きの見えない時代、なかなか変わることはない生活や人間の現実に、今も多くの人が同じような切実な問いを抱いているのではないのでしょうか？

●本日の福音書でルカは、洗礼者ヨハネが現れた時代について、当時のローマ皇帝や支配者、権力者の名前を細かく上げて説明しています。これはただ年代を告げているのではなく、当時のユダヤの土地でローマ帝国の力が増大し、社会が混乱の中にあつたことを告げているのです。

●そのような時代にあつて、洗礼者ヨハネが登場し、神に立ち返ることを人々に伝え始めました。ヨハネは人々に「蝮の子らよ。悔い改めにふさわしい実を結べ。」と叫び、全く変わることのない人間の現実に憤りをあらわにしました。ヨハネが告げた「持っている物を分かち合う事」、「規定以上取り立てをしない」、「だましとらない」などの言葉は、当時のローマ帝国の支配のシステムにあつて、社会的不公平、悪が横行していた事を示しています。そして、その現実にはヨハネの洗礼をもってしても変えられなかったのです。だからこそ、彼は憤っていたのです。しかしヨハネは同時に「私の後から来る方、つまり、イエスというお方にはできる」という希望を語ります。つまり、人が心の底から新たにされるのは「イエスキリスト」に、またその愛に触れることによってのみだということを伝えているのです。ルカによる福音書だけが告げている「徴税人ザアカイの話」はそのようにイエス・キリストによって感動をもって変えられた一人の人物の証です。

●人は本当に素晴らしいものと出会った時に、それがその人の生き方を根底から変えることがあります。キリストのその信じがたい圧倒的な神の愛に日々感動し、また感謝しながら生きていくことを通して神さまは私たちの心の奥、霊的な部分を新しくされていくのです。時になかなか変わらない社会や自分自身に焦りやいらだちを覚えることもありますが、聖書を通してイエスの愛を感動と感謝を持って共に受け取っていきたくないと願っています。そして少しずつ心の奥底から新たにされ、この世に主の愛を届ける働きを担っていきたく。そう願います。